

発行：2010年3月23日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦
 連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田 717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083
 ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

日刊新周南新聞から

南

2010年（平成22年）1月28日（木）

4



不条理な現実

事業に取り組んでい
 る。

山口県国際交流協会 創立二十周年事業として十七日に山口市で「山口から世界まるかじり！」というイベントが開かれた。

娘のリカは一九九五年から七年間、パレスチナに住み、母子保健プロジェクトにかかわった。帰国後も東京をも自治区ガザの写真展

や現地の人々の刺しゅう製品の展示販売などを行った。



子守りをするラオスのモンの子どもたち

この種のイベントとしては久々に活気があったのは、大勢の大学生や若者がボランティアで参加し

ていたからだろう。タイやベトナムへのスタディー・ツアーに同行した大学生もほぼ全員がボランティアとして参加していた。ここが一般観光ツアーとの違いである。

さて、そのイベントの展示コーナーでタイ北部のモン族を支援しているシャンティ山口の「電気も、水道も、トイレもない」ラオスのモン族の写真に目を奪われた。

実は昨年九月に行つたベトナムのスタディー・ツアーにシャンティ山口の佐伯事務局長も参加された。我々がベトナムを出発したあ

と佐伯さんとスタッフのモン族のジッポンさんは別行動でラオスに行ったのだ。

もともとジッポンさんはラオスに住んでいたが、ラオスが共産化した時、タイに脱出した。今回、ラオスを訪れ、生まれ故郷のモンの人たちがあまりに貧しい生活をしているのを見て涙したことが、

さらに心を痛めたのはタイのモン族四千人が昨年末、ラオスに強制送還されたというニュースだった。

タイ北部のベッチャブン難民センターにはラオスを脱出してきた四千人のモンがいた。タイ、ラオス両政府は彼らを「経済難民」としてラオスに送還するとしていた。国連やアメリカはもし強制送還されると迫害されるので中止するよう要請していたが、昨年末、とうとう強制送還されたのだ。

ラオスにいるモン族のあまりに貧しい生活にジッポンさんは涙した。そこから脱出したモンの人たちがラオスに送還されれば「大量餓死の恐れがある」とニュースレターは伝えている。

自分の国を持たない流浪の民で、中国揚子江付近に住んでいたモン族は漢民族に追わ

れ、中国西部の貴州省、雲南省、四川省などに少数民族として住んでいる。一部のモン族はさらに西に移動し、ラオス、ベトナムなど東南アジアの国々の少数民族として生活している。

ラオス内戦の際モン族の多くはアメリカが支援する側についた。しかし、ラオスが共産化さ

れると身の安全のためタイに脱出した。そして強制送還。何と過酷な宿命を背負つて生きなければならぬのだから。

展示されているラオスのモン族の写真を見ながら、あまりに不条理な現実が胸が痛かった。

(元山口放送取締役ラジオ局長)



水くみ子どもたちの仕事だ
 〓いずれも佐伯事務局長提供

—教育支援活動募金にご協力をお願いします。—

2010.03.23sacki